

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)総括表

資料3-1

◆取組みテーマ別取組状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組み実績
1 見守りの仕組みづくり	12	・見守り活動は、重点取組地区12地区のうち、8地区で実施(中央区全体としては13地区で実施)。なお、2地区では民生委員が見守りを行っているが、見守り体制づくりについて検討した。
2 高齢者を支える仕組みづくり	18	・いきいきサロンは、重点取組地区9地区のうち5地区で実施した。また、散歩クラブ、シニアリーダー体操、グランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、高齢者の交流や健康維持を図った。
3 障害者を支える仕組みづくり	4	・地域行事での障がい者施設の物品販売への協力、障がい者施設での作業補助や行事の手伝い、障がい者理解のための勉強会の実施等、障がい者の理解や住民との交流の機会を設ける取り組みは、重点取組地区4地区(実施地区16地区)であるが、コロナの影響で取組を実施できなかった地区が多かった。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	15	・セーフティウォッチャー等、子ども達の安全を見守る取組は重点取組地区6地区(実施地区17地区)で実施。また、子ども向けの地域行事や放課後子ども教室等、子ども達との交流を図る取組は重点取組地区2地区(実施地区17地区)実施しているが、大規模イベントや屋内の活動は実施が困難であった。子育てサロンは重点取組地区7地区(実施地区16地区)であるが、感染を考慮し中止とした地区が多かった。
5 健康づくり	8	・散歩クラブ、シニアリーダー体操、グランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)でコロナ禍でも、実施できた地区が比較的多く、高齢者の交流や健康維持を図った。
6 防犯・防災に対する取組み	27	・避難所運営委員会は重点8地区(実施17地区)で実施。子ども達の安全を見守る取組は重点6地区(実施17地区)で実施。防犯の取組は重点5地区(実施17地区)で実施。防災訓練は重点6地区(実施17地区)で規模を縮小するなどして実施した。
7 担い手の拡大とボランティア活動の促進	7	・高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動については、重点取組地区3地区(実施地区8地区)で実施した。また、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への参加促進を図る講座等については、重点取組地区4地区(実施地区16地区)で実施し、担い手の拡大に努めた。
8 福祉教育・啓発	12	・子ども向けの地域行事等を通じて交流を図る取組は重点2地区のうち1地区(実施17地区)で実施した。障がい者と住民との交流の機会を設ける取り組みは重点3地区のうち、1地区で(実施16地区)で実施した。住民の福祉力向上のための講座は重点4地区(実施地区16地区)で実施した。児童に対する福祉教育は重点3地区のうち1地区で(実施地区16地区)で実施した。
9 地域のつながりづくり	14	・重点7地区で地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した。(区内の地域運営委員会は5地区)。高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動は、重点3地区のうち2地区(実施地区8地区)で取り組んだ。地域行事等を通じて住民同士の交流を図る取り組みは重点4地区のうち1地区(実施地区17地区)で実施した。
10 相談支援体制と情報提供の充実	12	・重点7地区のうち5地区で、地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した。重点3地区のうち2地区で相談支援の環境づくりに取り組んだ。重点2地区を含む全地区部会で広報紙等で福祉情報の提供を行った。
今年度の振り返り	129	多世代交流や大規模イベント、高齢者や子供の行事など、開催を前提に準備を進めたが、コロナの感染者の増加により開催を取りやめるなど、開催可否の判断が難しい一年であった。感染状況を踏まえ、小人数の行事については、基本的な感染対策を行いながら実施することができた。
今後の課題と方針		コロナ禍で如何に活動を継続していくかが各地区の共通した課題である。また、担い手の確保、町内自治会(役員の交代)・関係団体との連携、活動拠点・活動資金の確保についても引き続き課題である。今後は、コロナの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開していく。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日		主な議題等
令和3年度	第1回 8月30日(月) (書面開催)	(1)第4期中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30~令和2年度)について (2)第5期中央区支え合いのまち推進計画(令和4~8年度)の原案について
	第2回 12月13日(火) (書面開催)	(1)第5期中央区支え合いのまち推進計画(原案)の検討結果について

◆区の地域福祉に関する好事例等

【みんなの想いが新たな形に！！】 ～淑徳大学と連携した白旗台地区部会『ふれあい食事サービス』～

白旗台地区部会では、コロナ禍で中止となっていた『ふれあい食事サービス』によるお弁当の配食を、令和3年10月より、形を新たにスタートさせました。当地区部会では、地区部会設立の翌年にあたる昭和62年11月より、主に70才以上の独居の方に対し、栄養の確保、食生活全体への注意喚起、見守りや安否確認などを目的として、月1回、ボランティアが南部青少年センターで調理した手作り弁当の配食を開始。今年で35年目を迎えました。この事業の開始当初、目的の一つとなっている「栄養の確保」については、月一回のお弁当では限界があるものの、食事がおろそかになりがちな高齢の方にも食生活に気を配ってもらえるように、いろいろな食材を使うことで、バランスのとれた「食事の見本」になるようなお弁当作りを心がけてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症収束の兆しが見えない中、調理施設の利用人数制限もあり、手作りによるお弁当の配食が困難となりました。このような状況においても、何とか続けることはできないかと模索する中で、昨年4月より数回の打ち合わせを重ね、淑徳大学と大学の食堂で食事を提供しているMKFグループの協力により、新たな仕組みによる食事サービスが始まりました。令和3年10月より、月1回の試行的実施。令和4年4月より、第1・第3木曜日、月2回の本格実施のとなりました。形は変わっても、事業開始当初の熱い想いを胸に、白旗台地区部会の『ふれあい食事サービス』はこれからも続いていきます。

<注目ポイント>

- Point1 「千葉市と淑徳大学との包括的な連携に関する協定」に位置づけられた取組みとして、淑徳大学、白旗台地区部会、市社会福祉協議会で覚書を取り交わし、実施。
- Point2 献立を淑徳大学栄養学科の学生が、大学のカリキュラムの一環として作成。メニューに従って、淑徳大学第二キャンパスの学食で食事を提供しているMKFグループ(株)が弁当を作成
- Point3 お弁当の配食は、主に民生委員が担当しているが、淑徳大学の学内ボランティア団体「共生(ともいき)スタッフ」や社会福祉学科の学生も同行。学生にとっても良い実習の場となっており、高齢者も学生との交流を楽しみにしている。

【集わなくても繋がれる】 ～オンラインを活用した高齢者と児童との交流～

東千葉地区部会では、例年、千草台東小学校の授業の一環として、全学年を対象に、昔遊び(お手玉、あやとりなど)や戦争体験のお話などを通じて、高齢者と交流会する機会として、「菜の花サロン」を年6回実施していました。コロナ禍で昨年度は開催できないでしたが、令和3年度は、小学校と協議の結果、オンラインを活用することにより、12月に開催することができました。これまでは昔遊びを高齢者が教えていましたが、今回は、上級生から教わった1年生が、練習してきたお手玉・あやとりを、オンラインで披露しました。児童の一生懸命な様子に、高齢者も目も細めて見守り、また感想を伝えました。また、戦争体験は6年生を対象として、従前は、高齢者が話す戦争体験に対して、児童が意見や感想を述べたり、質問に対して高齢者が答えるといった形式でしたが、オンラインでもスムーズなやり取りができるように、前もって作成した動画を、事前に児童に見て学習してもらい、それに対する感想や意見、質問について答える形式で行われ、たくさんの質問に対して、高齢者も丁寧に答え、児童にとっても高齢者にとっても有意義な時間となりました。

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
都地区部会エリア 【人口・世帯数】 9,243人、4,623世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 24.4% 【地域の特徴】 ○都町、都町1～3丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曽利地区部会が、中央区の都町と若葉区に加曽利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。	③ 見守り体制をつくる	1	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。 ・活動の中で最も要望が強く、リスクも少ないと思われる手芸の再開の準備をしている。	これまで、見守りの対象者は独居高齢者に特化していたが、コロナ禍でこれまでの生活が一変したことにより、新たに見守りが必要な住民の存在を知り、協力員の増員と同時に体制の再構築をすることで強化を図った。	これまで、何度となく再開に向けパンフレットの作成や、名簿の整理等準備を進めてきたが、状況の好転は見られず、ほとんどの活動を中止せざるを得なかった。 そのような中で、スタッフの士気が下がるとは不安な気持ちになる。 一方では、コロナ禍だからこそ、できることがあるのではと模索しながらの葛藤の一年だった。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。 今年度は、少しずつだが再スタートを切ったので、規模の縮小や方式の変更などの調整を試みながら、活動を継続していきたい。
⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	いきいきサロンについては、再開への要望が強いを受け、スタッフとの会議を通し、再三対策を検討したが、時期尚早ということで開催を見送った。 70才以上の独居高齢者を対象とした年末慰問は、お手紙を同封しての配布なので、面談を避けることで例年どおり実施した。	いいききサロンについては、再開への要望が強いを受け、スタッフとの会議を通し、再三対策を検討したが、時期尚早ということで開催を見送った。 70才以上の独居高齢者を対象とした年末慰問は、お手紙を同封しての配布なので、面談を避けることで例年どおり実施した。			
⑨ 子育てサロンの充実	4	保護者への電話を通して近況報告を伺いながら、再開への準備を進めていたが、コロナの感染状況に鑑み、再開を断念せざるを得なかった。	保護者への電話を通して近況報告を伺いながら、再開への準備を進めていたが、コロナの感染状況に鑑み、再開を断念せざるを得なかった。			
⑬ 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	3	施設訪問を予定していたが、コロナの収束の目途が立たない状況から、延期を決定した。	施設訪問を予定していたが、コロナの収束の目途が立たない状況から、延期を決定した。			
末広地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,681人、6,787世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 20.8% 【地域の特徴】 ○長洲の一部、末広、千葉寺町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 地区内に末広街道・大網街道の幹線道路や地区を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅がある。 また、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。 また、地域を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅や青葉も森公園が存在しており、それらに伴う道路網の整備のため、最近では、末広街道・大網街道とも交通量の増加している。	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	各避難所運営委員会で、避難所開設訓練の実施を予定していたが、コロナ感染が収束しないために、開催には至らなかった。	事業実施に向けて準備をしても、コロナの感染状況により、中止を余儀なくされるような状況であった。 コロナ禍でいかに活動していくかが今後の課題である。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4子どもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
寒川地区部会エリア	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	災害時要支援者の避難支援体制を構築するため、地区部会が、町内自治会の協力を得て、災害時要支援者の近隣の方に支援者(避難を手伝う協力者)として登録いただき、作成した「災害時要支援者及び支援者名簿」を更新した。 また、災害発生時に備え、例年、地区部会が災害時要支援者の避難訓練を実施するとともに、避難所運営委員会が、6町内自治会合同の防災訓練を実施し、災害時要支援者の避難支援体制のさらなる充実に図ってきたが、令和3年度は、コロナの影響で実施には至らなかった。	事業実施に向けて準備をしても、コロナの感染状況により、中止を余儀なくされるような状況であった。 コロナ禍でいかに活動していくかが今後の課題である。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
【人口・世帯数】 5,670人、3,108世帯						
【町内自治会数】 6町内自治会						
【高齢化率】 22.6%						
【地域の特徴】 ○港町、寒川町、稲荷町を対象としたエリア。JR本千葉駅と蘇我駅の間に位置している。かつては寒川神社を中心に、川崎製鉄の裏門に沿って栄えた地域で、昔からの住民が多く、かつ一戸建てが多く存在しているためか、住民の転居なども少なく、高齢化が比較的に行進しやすい環境の地域である。						
ちば中央地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	1	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	民生委員・福祉活動推進員及び町内自治会の協力をいただきながら、個別対応ではあるが見守り活動を継続して実施している。	事業実施に向けて準備をしても、コロナの感染状況により、中止を余儀なくされるような状況であった。 コロナ禍でいかに活動していくかが今後の課題である。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。
【人口・世帯数】 16,092人、9,021世帯	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	例年、3か所の避難所運営委員会で、年1回、地域住民の参加を呼びかけ、消火訓練やAED訓練、ハイゼックス体験、マンホールトイレ体験等を内容とした防災訓練を実施し、防災意識の向上を図っているが、一つの避難所運営委員会で、あんしんケアセンター千葉寺、中央区機関相談支援センターの協力のもと、在宅酸素の住民の避難を想定し、HUG(避難所運営ゲーム)の勉強会を開催し、情報の共有を図るとともに、障害を持つ方の避難について、理解を深めた。			
【町内自治会数】 27町内自治会						
【高齢化率】 24.3%						
【地域の特徴】 ○中央、市場町、長洲の一部、本町、東本町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、亀岡町、亥鼻、葛城、青葉町の一部を対象としたエリア。 千葉市の歴史、文化、経済の中核的な役割を果たしてきた地域で、繁華街と商店街が多く、また、千葉城・青葉の森などの文化・芸術施設も多い。	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	葛城町内会では、町内会、民生委員、あんしんケアセンター千葉寺が参加し、地域課題を話し合うとともに支え合い活動の勉強会を実施した。 また、地区部会では、一昨年、住民が気軽に参加できる集いの場を提供する具体的な取り組みとして、あんしんケアセンター中央、プラチナホーム都の杜なのはなと協議を重ね、近隣住民が参加できる認知症カフェをモデル的に2回実施したが、コロナ禍で実施を見合わせている。			
	⑰ 地域での福祉教育の推進	8	例年、敬老会の際、小学校、中学校の児童・生徒が参加し、歌や踊りを披露するなどのボランティア体験を通じ、福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図っているが、コロナの影響により中止。			

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4子ども子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
中央東地区部会エリア 【人口・世帯数】 13,712人、8,346世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 25.4% 【地域の特徴】 ○祐光、椿森、道場北、院内、要町を対象としたエリア。 千葉市都市モノレール千葉公園駅の東側に位置し、古くからの一戸建て住宅が多い。また、地域内には千葉医療センター(旧:国立千葉病院)がある。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	年2階開催予定の「地域ケア会議」は、コロナ感染症の為に、1回目は書面開催となったが、2回目は12月に開催した。	高齢化が進むにつれ、無くなったり、施設に入所されたり、子どもの元へ引っ越しされたり、対象者が減少している。 回覧を回しても申し込みがないのが現状である。 また、活動スタッフが高齢となり、若い担い手がいないことが心配。いかに担い手を確保していくかが課題である。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
	③ 見守り体制をつくる	1		見守り活動については、例年どおり活動を行った。ただし、訪問型の対面は取りやめ、目配りまたは電話により確認を行った。 年4回の各自治会での報告会、そして同月にリーダー報告会を行った。 また、見守り活動の現状報告と、希望者・協力者募集の回覧を全町内自治会でいった。		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5		「いきいきサロン」や「ふれあい散歩」のように、人の集まる活動は、対象者が不安という意見から、全て中止とした。 各町内自治会で、早朝ラジオ体操、老人会では、公園にてグランドゴルフを行っている。		
	⑨ 子育てサロンの充実	4		「子育てサロン」についても感染症の不安から、すべて中止とした。		
東千葉地区部会エリア 【人口・世帯数】 4,166人、2,035世帯 【町内自治会数】 7町内自治会 【高齢化率】 36.4% 【地域の特徴】 ○東千葉を対象としたエリア。 旧軍用地のあとに建設された県営住宅、公務員住宅、マンション、その他の一般住宅などがあり、昔からの住人と新たに流入してきた新しい住人が共存している。	② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	地区部会が高齢者等のちょっとした困りごとを支援する「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いのグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)を統合し、新たに「ハッピーボランティア東千葉」として支え合い活動に取り組んでいる。 また、対応できないケースについては、コーディネーターが専門機関等を紹介できるよう他の支援サービスの一覧を作成している。	コロナ禍で会食や多世代交流などのイベントが出来ない中で、ノウハウをいかに継承していくかが課題である。 また、コロナの影響で閉じこもりがちとなった高齢者に対し、如何にフレイルを予防していくかが課題である。	コロナの感染状況を見て、基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。
	③ 見守り体制をつくる	1		ハッピーボランティアの会では、高齢者等、支援が必要な方を対象に、日常的な目配りによる見守り活動に取り組むとともに、住民同士が知り合える機会の提供に努めた。 また、民生委員が、「安心カード」を75歳以上の高齢者に配布している。なお、一部の町内自治会では、希望者にも配布している。 さらに、住民同士が気軽に声をかけ合い、認知症の方が安心して暮らせる地域を目指し、「福祉展示」を実施した。		
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		例年、地区部会と7町内自治会が協力し、合同の防災訓練を実施しているが、コロナの影響で中止となった。 また、地域の中で防災に関心の高い方々で組織した「防災サポートの会」との協力体制の構築を図っている。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

資料3-2

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
西千葉地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる ④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援 ⑦ 地域での健康づくり支援の充実 ⑪ 世代間交流の場の提供 ⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供 ⑰ 防災体制の充実	1	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	地区部会・第五地区町内自治会連絡協議会・108地区民児協の三者協働で、平成19年から見守り活動として、「安心カード・緊急メモ」を作成し、6町内のひとり暮らしや障害者、現在は、75才以上の高齢者に配布し、玄関、電話の場所に設置してもらっている。救急車で搬送時には、連絡先等が明記されているため大変助かったと感謝されている。 6町内自治会全てにおいて、独自の方法で見守り活動を実施。見守り対象者の更新を毎年行っている。向こう三軒両隣の目配りや声かけを実施。また、防犯パトロールにおいては、地域住民が「安心・安全」に生活できるよう不審者情報・詐欺情報・火の用心等を周知し、実施した。	地区部会の事業計画は、感染防止対策・参加者の制限を行い、集うことの困難な事業は相違工夫をして概ね計画どおり取組みを実施した。 関係団体の地域事業の取組みは、実施が難しく、中止となったものが多かった。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
【人口・世帯数】		6	民生委員が中心になって民生委員が把握している情報をもとに、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは今年度も更新した。 災害時には、日常的な見守り活動を行っている協力員が、避難支援を行う体制をとっている。 避難所運営委員会が、年1回会議を開催し、備蓄品の確認を行った。			
12,697人、6,686世帯		2 5	地区部会では、コロナ禍の中、介護教室は開催できないため、高齢者福祉委員会と障がい者福祉委員会が合同で、千葉市中央介護専門学校の先生に協力を得て、「健康体操の冊子」を作成し、また、川柳(全国有料老人ホーム協会からの抜粋)を、支援の必要な高齢者に、「行動制限の多い日々ですが、健康を維持し、明るい気持ちで毎日を送っていただけますように」と願いをこめて、手紙と心ばかりの品を添えてお届けした。 6町内自治会中、5町内自治会において、老人クラブが組織されており、老人クラブが「グランドゴルフ大会」を開催した。 スポーツ振興会では、「ウォーキング」を定期的実施するとともに、「バレーボール大会」を開催した。 シニアリーダーが、特別養護老人ホーム新千葉一倫荘を会場に、月2回、シニアリーダー体操を行った。 登戸ラジオ体操界が、毎日、戸渡神社でラジオ体操を行った。			
【町内自治会数】		9	地区部会では、今年度は、登戸1丁目公園で、福祉ふれあいミニバザーを開催した。感染対策をし、近隣の親子連れ、若者、高齢者が集まり、世代を超えた交流の場となった。 特別養護老人ホーム新千葉一倫荘では、年数回「地域交流会」を開催、地域の子供たちも参加した。 町内自治会主体で実施している清掃活動、「ごみゼロの日」「毎月の公園清掃」には、大人も子供も参加し、交流の機会となった。 町内自治会サークルが一堂に会して、「発表会」「文化祭を開催」、地域で交流の場となった。			
6町内自治会		7 8	地区部会が、「防災教室」を年1回開催した。 「介護予防教室」が実施できなかったため、支援が必要な方等への健康体操冊子を作成し、配布した。 各町内自治会でも、老人クラブと協力して、認知症や口腔ケア等の福祉講座を開催した。			
【高齢化率】		6	地区部会では、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 6町内自治会では、すべてに自主防災会があり、各防災会が、年1回、安全確認、避難訓練、初期消火、応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車、煙体験などの訓練や防災講座を実施しており、赤十字奉仕団と協力している。防災訓練には子ども達も参加している。			
【地域の特徴】						
○登戸、春日、汐見丘町、新千葉の一部を対象としたエリア。 地区内に京成の新千葉駅及び西登戸駅、JRの西千葉駅がある。 隣接する地域に千葉大学、千葉東高校、千葉商業高校等、複数の教育施設がある文教地域。						

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4こどもと子育てを支える仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
中央地区部会エリア						
【人口・世帯数】 6,610人、3,953世帯						
【町内自治会数】 6町内自治会						
【高齢化率】 19.7%						
○弁天、栄町、富士見、本千葉町、新町の一部、新千葉の一部を対象としたエリア。 JR千葉駅周辺の地区で、駅北口側の住宅地や千葉公園、東口側の商業施設や繁華街が共存している地域。	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	<p>・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らしてを実施する。</p> <p>・防水ゲート開閉訓練は、千葉市から鍵を借用できず、実施困難である。</p>	<p>当地区部会では、弁天北部方面の児童を対象に、弁天小学校への毎朝の集団登校に付き添うとともに、弁天小学校の1～2年生を対象に、毎週金曜日の下校時、校門から自宅まで送り届ける「こどもみまもり隊」パトロールを実施した。</p> <p>また、児童の健全育成を図るため、地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞、歌や踊りを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた(コロナ禍で規模を縮小して開催。参加者79名)。</p> <p>例年、弁天小学校の「わくわくキャンパス」(毎週木曜日、15:00～16:00)に地区部会も協力しており、ソフトボール、バスケット、マット遊び等、児童と一緒に遊び、かつ児童の見守りを年間25回程度行っているが、令和3年度はコロナの影響で中止。</p> <p>地域住民が、セーフティウォッチャーに協力し児童の安全を見守った。</p>	<p>団体として活動をするため、やはり感染が怖く、サロン活動は半分くらいしか出来なかった。</p> <p>コロナ禍でいかに活動していくかが今後の課題である。</p> <p>また、継続して取り組みを実施していくための担い手の確保については、引き続き課題である。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。</p>
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2		<p>例年、地区部会(高齢者福祉委員会)が、いきいきサロンを3会場で実施。中央区健康課の介護予防体操や、あんしんケアセンター中央の健康講話を取り入れる等、内容の充実に努め、高齢者の健康維持や仲間づくりに取り組んでいるが、令和3年度はコロナの影響で5回の実施となった。</p>		
	⑱ 防犯対策の推進	6		<p>地区部会では、弁天小学校の1年生とその保護者を対象に、NPO「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、「児童向けの安全教室」を実施し、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練した。</p> <p>町内自治会では、防犯に対する意識の向上を図るため、防犯パトロールを実施した。</p>		
	⑲ 防災体制の充実	6		<p>弁天町会では、千葉公園の綿打池が過去の大雨で氾濫した経験を踏まえ、防水ゲートの開閉訓練を計画していたが、ゲートの開閉は市の委託業者がやることとなり、住民で行う必要が無くなった。</p>		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 3-2

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
新宿地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,456人、6,747世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 16.4% 【地域の特徴】 ○新宿、神明町、新田町、出洲港を対象としたエリア。千葉市のほぼ中心に位置し、近くにはJR千葉駅や京成千葉中央駅等がある。学区及び周辺は、デパート等の大型店舗が軒を並べる市内有数の商業地域がある。新興集合住宅が多く建設され、ファミリー層が流入してきている。	③ 見守り体制をつくる	1	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	民生委員が主体となり、あんしんケアセンターと連携しながら見守りを行っている。また、マンションについては管理人に見守りをお願いしている。 町内自治会や老人会では、諸行事を通じて顔見知りになる機会を設け、緊密な人間関係の構築に努めている。 地区部会では、あんしんカードをすべての75歳以上の方へ、令和5年に配布できるよう、準備を進めている。また、見守り活動に協力いただける方に、セーフティウォッチャーや近所のさりげない見守り活動に協力いただいている。	コロナの感染拡大により、活動を継続することが困難であった。 地域団体の基盤となる町内自治会役員のなり手の減少、1年で交代となるところが多いことや、マンションが増加しているが町内自治会に加入する人が少ない、地域行事の担い手不足など、は継続した問題。 安定した事業運営のための担い手や継続した活動資金の確保が必要である。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組みに絞って又は人数を減らして活動を実施する。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、隔月で会議を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施し、例年、100人強が参加しているが、令和3年度はコロナの影響により、規模を縮小して実施した。		
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6		例年、町内自治会や子ども会では、餅つき、お祭り、お花見、盆踊り、新年会、敬老会の余興など、地域の行事に子どもたちが参加し、住民と交流しているが、令和3年度はコロナの影響により中止。 地区部会では、幼少期の子どもを持つ親の負担を軽減するため、新宿公民館で「ベビーマッサージ」を年2回開催し、子育て中の親の育児相談を行うとともに、新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加しているが、令和3年度はコロナの影響により中止。 地域住民が、新宿小学校の「放課後子ども教室」や1年生を対象に年1回実施している「遊び等の体験活動」に参加協力している。また、「こども110番のいえ」に協力するとともに、セーフティウォッチャーとして学校に30名登録して登下校時の子ども達の安全を見守った。		
	⑥ ふれあいいきいきサロンの充実	2		例年、地区部会では、高齢者の仲間づくりの場を提供するため「ふれあいいきいきサロン」を年2回実施しているが、コロナの影響により令和3年度は中止。 町内自治会や老人クラブでは、誕生会、ランドゴルフ、カラオケ等を実施し、月1回程度は高齢者が交流する機会を設けているが、同様に中止。		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5		地区部会では、高齢者の健康増進を図るため「歩こう会」を年2回実施しているが、コロナの影響で中止となった。高齢者を対象に認知症をテーマにした健康セミナーについては、例年どおり開催した。 スポーツ振興会では、ランドゴルフ大会を年2回開催した。 新宿公民館では、週1回、シニアリーダー体操が行われている。		
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8		例年、地区部会の障がい者福祉委員会が、千葉県聴覚障害協会の就労継続支援施設「らいおん工房」で、月1回、手作り販売品の作成等を手伝うボランティア活動を行い、障がい者との交流を図っていたが、コロナの影響により、販売品の材料の寄付や販売品の購入を通じて交流を図った。		
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8		地区部会が、中央区健康課と連携し、住民の福祉力向上を図るため、「認知症について」の講演会を年1回実施した。		
	⑱ 防犯対策の推進	6		町内自治会では、月2回、防犯パトロールを実施するとともに、年2回、地域交番(京成交番)と連携し、地域の防犯意識の向上に取り組んだ。		
	⑲ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、隔月で会議を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施し、例年、100人強が参加しているが、令和3年度はコロナの影響により、規模を縮小して実施した。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4子どもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

資料3-2

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
蘇我地区部会エリア 【人口・世帯数】 18,500人、9,351世帯 【町内自治会数】 8町内自治会 【高齢化率】 15.9% 【地域の特徴】 ○蘇我、今井、若草、南町を対象としたエリア。JR蘇我駅周辺の地区で、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターやサッカー場ができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種会議等開催有無の判断に苦慮した。施設での活動が低下することが心配。コロナにより、高齢者宅訪問が減少。その間の状況変化を把握することが困難であった。また、各種サロン実施するボランティアの方々との連絡調整に苦慮した。組織体制の維持が今後の課題である。	地域ケア会議は、コロナの影響で実施できず。但し、民児協定例会(月1回)の会議に、あんしんケアセンター職員にも参加していただき、問題点の共有化を図った。また、コミュニティ懇談会【地域運営委員会】(年4回)や青少年育成委員会連絡会(年6回)に参加し、地域課題について情報交換を行うとともに、地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図っている。介護付有料老人ホーム「そんぼの家 蘇我」と地域が連携した取組について協議した結果、開催してきた施設を利用した高齢者の集いの場や、あんしんケアセンター松ヶ丘の多職種連携会議はコロナの影響で中止。	各種会議等開催有無の判断に苦慮した。施設での活動が低下することが心配。コロナにより、高齢者宅訪問が減少。その間の状況変化を把握することが困難であった。また、各種サロン実施するボランティアの方々との連絡調整に苦慮した。組織体制の維持が今後の課題である。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。7月に、ポッチャ講習会の第1回目を開催予定。子育てサロンを除き、10月より活動再開の予定。子育てサロンの再開までは、広報紙等で、子育てリラックス館等の活用をPR。
	③ 見守り体制をつくる	1		地区部会が、地区内の8町内自治会を通じて、町内自治会加入の全世帯を対象に配布している「冷蔵庫保管用安心カード」については、記載内容の見直しを行い、町内自治会を通じて配布した。また、町内自治会未加入の75歳以上のひとり暮らし高齢者については、民生委員の協力を得て5月の「高齢者実態調査」の際に配布した。また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、実施予定だった「地域見守り活動～オレンジフェスティバル～」は、コロナの影響で実施できず。		
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6		子ども達の安全を守るため、「セーフティウォッチャー」や「子ども110番のいえ」に地域住民が協力した。また、不審者対応として、青色回転灯装着車によるパトロールも計画どおり実施するとともに、パトロール活動への支援として、若干のガソリン代の支給やドライブレコーダーの貸与等も実施できた。地区部会が蘇我小学校から依頼を受け、年1回の「昔あそび」のゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、蘇我小学校で全学年を対象に月2回実施している「わくわくキャンパス」には、内容に応じて参加・協力しているが、コロナの影響で実施出来ず。また、「ローゼンそが保育園」の昔あそびのゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、新たに認可保育園「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして役員が協力することになっていたが、コロナの影響で実施できず。例年、地区部会が協力し、高齢者が昔遊びの指導等に協働参画している、地区の子ども会行事や、主任児童委員が中心となり、蘇我小学校に週1回出向き、全学年対象に実施している「本の読み聞かせ」については、コロナの影響で実施できず。		
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2		地区部会が、4会場で年間各4回実施しているいきいきサロンは、コロナの影響によりすべて中止した。各部会活動に使用可能な備品(ポッチャ2セット)を配備した。		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5		例年、60歳以上の高齢者を対象に、健康維持や交流の場づくりを目的として実施している、年4回の「ふれあい・散歩クラブ」、年16回の「ふれあい・いきいきサロン」はコロナの影響で中止。また、健康促進に関する年1回の講座、高齢者の健康増進を図るために地区部会として協力している、スポーツ振興会及び老人クラブで行っているスポーツ活動・蘇我いきいきセンターで月2回行われているシニアリーダー体操もコロナの影響で中止。		

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4こどもと子育てを支える仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性			
蘇我地区部会エリア	⑫ 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	2		例年、地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を継続して実施しているが、コロナの影響で中止。なお、今後の訪問活動内容について検討中。					
	⑮ 防犯対策の推進	6		例年、民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンで実施している、「振込詐欺の対応や防止策」等についての講座は、コロナの影響で中止。 育成委員会では、青色パトロールを各町内自治会で週割し、実施した。 第9地区連協では、49町内自治会のうち41町内自治会が防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 移動交番が、蘇我コミュニティセンターや東武ストア蘇我店に開設されている。 昨年度、蘇我中学校区の小・中学生が一緒に作成した「子どもの目からみた安全マップ」を広報紙に掲載し、活用する予定である。 地域住民が「こども110番の家」に協力している。 PTAが学校の長期休暇に合わせ、防犯パトロールを兼ねて実施している地区内一斉点検に地区部会が協力した。					
白旗台地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	・新型コロナウィルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	(1)コミュニティづくり懇談会では、コロナ禍においても万全な対策を取って予定通り年3回の開催を計画して準備を進めた。10/2の第1回では「風水害の対応について」特にコロナ禍における対応を含めて危機管理部長を講師に迎え実施した。(参加者75名)さらに10/30の2回目では「これからの千葉市のまちづくり」について神谷市長を講師に110名が参加して実施することができた。第3回目は1/22に都市部長を講師に実施する準備を進めたが、コロナの第6波のピークと重なり、講師側の意向もあって(中止)翌年に延期することにした。また実施した講演内容を「コミ懇だより」に掲載し各家庭に回覧した。 (2)避難所の立上げ訓練等は千葉市の計画日である8/29に7か所ある避難所の大半で実施した。(一部遅らせて実施した所もあり)但し多数での実施には問題が多いことから、多くの避難所では避難所運営委員のみで、備蓄品の確認や備品の試用程度の訓練となった。 (3)青色装着車によるパトロール活動については、コロナ禍にもかかわらず学校のある日には毎日3台程度でパトロールをほぼ実施できた。但不審者の押さえ込みについては、学事課からの情報提供に問題があり、対応が遅れたこともあって蘇我中学校地区で10件発生してしまった(学事課経由の連絡はそのうちの1件のみであった)。件数的には市の平均近くまで戻ってしまった結果ではあったが、蘇我中地区で発生した不審者対応は早く行える体制づくり等は行うことができた。 (4)避難所備蓄品の充実については、エアーマットとトイレキットを購入し7か所の避難所の全てに市の配布品とは別に配布することができた。 (5)地区部会補助金の統合補助金化や地域ケア会議の充実については、対応先との会議がコロナ禍で持たず特に進展はなかった。それでもフレイル対応や個別案件についてはあんしんケアセンター等と話し合いはできた。	・新型コロナウィルスの感染症が、かなり危険な状況から大分安心できるレベルまでいろいろ変化する中、できる限りの対策をとって「実施」と判断したものについては、しっかり実施したが、その判断が難しかった。 ・フレイルの言葉は知っていたが、高齢者が家に引きこもり、仲間等との交流を絶たれると、こんなに多くの人が肉体的に衰弱し、認知症等も悪化するものかと、フレイルの怖さを実感した。 ・一方、高齢者の参加が中心となる事業については、どうしても安全サイドの判断にならざるを得ず、「実施」か「中止」かの判断は特に難しかった。 ・具体的な判断の指針または相談先の確保は、今後の課題としてぜひ欲しいと感じた。	・新型コロナ感染症の状況をよく見ながら、これまでの経験を生かしてしっかり判断し、対策は十二分に取らなければならぬ。無理のない範囲で、内容のある形で実施してゆきたい。			
【人口・世帯数】 25,294人、12,481世帯				② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9		(1)令和3年度の活動に際しても、支え合いの事業内容については、コロナ禍であることを配慮して「生活必須」のものにできるだけ絞って実施することにした。 (2)それでも活動件数は毎年着実に増加し、令和3年度は461件と大幅に増加して実施することができた。これは38件/月以上で、ゴミ出しが大半となっているものの、当初予定の値をほぼ達成することができた。		
【町内自治会数】 41町内自治会				③ 見守り体制をつくる	1		(1)コロナ禍でいろいろ苦労があったが、防犯パトロール活動と連携した「さりげない見守り」を中心に、ほぼ計画どおり継続して実施できたところが多かった。 (2)勉強会・講演会等は開催しづらかった為、町内自治会によって、実施内容に差がついてしまい、希望者・協力者の更新が進んでいないところも認められた。 (3)それでも全体的には、概ね計画どおり取り組みを実施できた。		
【高齢化率】 24.9%									
【地域の特徴】 ○白旗、鶯の森町、今井町、大蔵寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 古くからの農村地帯と昭和50年代に宅地造成された地域がほぼ同じ割合で混在する区域で、一部住宅地では、高齢化率50%を超える自治会もある。									

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

資料3-2

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
白旗台地区部会エリア	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		(1)令和3年度もコロナ禍の為、一般市民をまじえた避難訓練等は実施できなかったが、多くの避難所で8/29に避難所運営委員と施設管理者、直近要員で備蓄品の確認や備品の使用方法の訓練等を行った。 (2)マニュアルの見直し等を多くの避難所で実施したが、規模は比較的小規模であった。市の基本的なマニュアルが大幅に見直されたので、令和4年度にはコミ懇でその詳しい説明会を実施(11/20)後、更に必要な見直しを行う予定。		
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6		(1)あいさつ運動やのぼり旗の更新等は、ほぼ予定どおり実施できた。 (2)子ども110番のいえ訪問・駆け込み訓練の再検討は、コロナ禍で会議が開けず実施できなかったが、青色回転灯装備車によるパトロールは1の(3)のとおり実施できた。また、パトロール車への若干の補助は本年も計画通り実施することができた。 (3)更に、蘇我中1年生全員(292名)を対象にした「子どもによる子どものための子ども権利条約」の読書感想文事業は、本年度も1年生ほぼ全員の参加が得られ、内容もかなり充実していた。		
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2		(1)「健康」をテーマに地区部会主催で計画したいいきいきサロンは、参加者のコロナ感染症を心配して、7会場すべてで中止とした。 (2)各町内自治会主催のものは、コロナ感染予防対策を十分行いながら実施できた。(4町内自治会合計87回・1老人クラブ13回)		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5		(1)ふれあい散歩クラブ活動は、コロナ禍でも比較的多くの町内自治会で実施できた。(3町内自治会合計57回・1老人クラブ19回) (2)いきいきサロンでの健康体操についても継続実施ができたところもあった。 (3)スポーツ振興会主催のものでは、市民体育祭はいずれも中止となったが、代替事業としてグラウンドゴルフ大会等を開催した。体育館等室内のものはほぼ全部中止とせざるを得なかったが、屋外のグラウンドゴルフ大会等は計画より多く実施できた。ただし、参加者数は、フレイルの影響や参加自粛の高齢者もあり、減少した。 (4)あんしんケアセンター主催のWEB会議が、オーラルフレイルをテーマとして開催された。数名のメンバーが参加し、知見を高めることができた。		
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	4 8		(1)「放課後こども教室」は1小学校(大森小)で実施した。「蘇我の歴史散歩」、スポーツ振興会の市民体育祭はいずれも中止とした。屋外実施のグラウンドゴルフ等は各地で計画以上に多目に実施することができた。 (4)屋内で計画した事業については、中止せざるを得ないケースが大半であったが、コミコンの事業や地区部会主催の研修会、スポーツ振興会等の屋外事業等は、コロナ制限下の中ではかなり良く実施ができた。		
	⑨ 子育てサロンの充実	4		(1)コロナ禍ではあったが、何度も計画し実施を試みたが、実施できたのは1回のみだった。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4子どもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

資料3-2

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の方針	令和3年度の実績	令和3年度の方針に困難があった点・今後の課題	令和4年度の方針
白旗台地区部会エリア	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8		(1)研修会については、コロナ禍でも3回実施できた。 (2)コミュニティづくり懇談会では地域福祉活動に関する部分もかなり取り入れた懇談会を万全なコロナ対策を行った上で実施し、185名の参加者を得た。 また懇談会の内容を「コミ懇だより」に掲載し、各家庭に回覧した。 (3)各町内自治会で計画したものについては、大半は中止せざるを得なかった。		
	⑮ 防犯対策の推進	6		(1)各町内自治会による防犯パトロールについては、コロナ禍にも関わらず、多くでほぼ例年通り実施できた。 (2)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、昨年度までと同様、コロナ禍にあっても学校のある日には毎日3台/日のペースで実施できたが、不審者の出没の抑え込みでは外部的問題もあり結果的にはあまりよい成績ではなかった。対応を整え次年度以降の成果に結び付けたい。		
	⑯ 防災体制の充実	6		(1)避難所の立上げ等の訓練は、8/29の市の訓練日を中心に規模を縮小して実施した。 多くの避難所では、運営委員・直近要員・施設管理者で実施した。 (2)令和3年度は実訓練がしづらい状況だったため、多くの避難所運営委員会では、マニュアルの見直し等を行った。 (3)エアーマット10、トイレキット72を市の支給品とは別にコミコンより受けとり、更に各避難所で活動支援金を活用して充実を図った。		
生浜地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	「生浜地区地域運営委員会」の4部会、「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」、「スポーツ部会」では、一部の部会を除き、コロナ下での活動について協議を行った。	コロナ禍での事業再開に向けての協議を行ったが、その都度、感染が拡大し、再開出来なかった。 令和4年1月、地区部会の活動の担い手に寒中見舞いを送り、励ました。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。 「いきいきサロン」、「健康体操」等については、再開を目指し検討中。 車いす体験教室については、12月20日に行うことで準備している。
	② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9		コロナ禍の中、休止。		
	③ 見守り体制をつくる	1		民生委員が中心となり活動。		
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		毎年3月に行っている「生浜地区合同防災訓練」は中止。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4子ども子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

資料3-2

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
生浜地区部会エリア	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6		学校が主体となって実施している「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んだ。 また、生浜地区地域運営委員会の「青少年部会」において、不審者情報の共有を図っている。		
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2		地区部会の「いきいきサロン」は中止した。 老人クラブでは、グランドゴルフや輪投げ、ダーツ等の行事を開催した。		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5		公民館や一部の町内自治会では、シニアリーダー体操教室を実施した。		
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	4 8		「生浜地区体育祭」「子どもふれあい祭り」は中止。		
	⑨ 子育てサロンの充実	4		「子育てサロン」及び幼稚園、保育所、保育園との情報交換は中止。 災害ボランティアの方々には、活動の中止を申し出ている。		
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8		毎年行ってきた生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車いす体験は中止。		
	⑪ 世代間交流の場の提供	9		生浜地区内のイベント(体育祭・盆踊り・お祭り)が中止となったため、取り組めなかった。		
	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10		ふれあい・いきいきサロンや子育てサロンを中止したため、取り組めなかった。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4子ども子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
生浜地区部会エリア	⑰ 地域での福祉教育の推進	8		各町内自治会で実施している「敬老会」、育成委員会が実施している「子どもふれあい祭り」が中止となったことにより、取り組めなかった。		
	⑱ 防犯対策の推進	6		地区部会で毎年行ってきた「熟年者交通安全教室」は中止。防犯パトロールを組織化している町内自治会では、定期的にパトロールを実施した。		
	⑲ 防災体制の充実	6		九都県市合同防災訓練に合わせた避難所開設訓練は中止となったが、各避難所で、備品点検、食品賞味期限チェックを実施した。あわせて避難者がどこの避難所へ避難すればよいかを明確にした。		
松波地区部会エリア	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多いイベントを除き、すべての取組を実施する。	いきいきサロンは、グランドゴルフ(雨天及び学校の長期休暇期間は休み)を松波公園で週2回開催するとともに、松波会館で脳トレ会、ウクレレ会を月2回、卓球会を週1回開催し、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図った。	概ね計画どおり取り組みを実施した。安定した事業運営の為に、関係団体との連携を円滑にする必要がある。また、担い手を確保する必要がある。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。
【人口・世帯数】 4,764人、2,622世帯						
【町内自治会数】 1町内自治会						
【高齢化率】 25.1%						
【地域の特徴】 ○松波町を対象としたエリア。大規模な公務員住宅や民間のマンションなどもある閑静な住宅地域、学校の周辺には3大学、4高校及び千葉市教育センター、放射線医学研究所、東京大学生産技術研究所などの機関があり、一大文教地区をなしている。	⑨ 子育てサロンの充実	4		地区部会が、子育て中の親子を対象に、月2回、中央区健康課の保健師、栄養士、歯科衛生士による指導、工作、季節のイベント、スタッフ(助産師)による育児相談等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。		
	⑯ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10		地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、社協だよりを、年4回発行した。 また、千葉市松波町会のホームページのリンクより、「社協松波地区部会」、「お助けマングラブ」ほか諸団体のページに飛ぶことが出来るようしており、地域情報発信の充実を図っている。		
	⑰ 地域での福祉教育の推進	8		例年、敬老会に、千葉商業高校の吹奏楽部が参加するとともに、赤い羽根の歳末募金に千葉商業高校青少年赤十字の生徒が協力し、活動を通じて、福祉の心を育む機会を設けている。 また、町会の夏祭りには、クラーク記念国際高校の生徒が参加し、子どもと山車を一緒にひいたり、ダンスやバンド演奏を披露している。 ※ R3年度はコロナ禍で何れも中止。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4子ども子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

資料3-2

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
松ヶ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,920人、5,687世帯 【町内自治会数】 37町内自治会 【高齢化率】 28.6% 【地域の特徴】 ○松ヶ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 戦後、京葉臨海工業地帯造成発展に伴い、全国から人が流入し人口が急増。以前は川鉄及びその関連会社に勤める住民が中心であったが、近年では過去においては川鉄及びその関連会社が中心であったが、近年はその傾向は減少。平成4年度、千葉急行(現京成電鉄)の大森台駅が開業によりJR千葉駅や東京方面への交通の便が改善され、地区の活性化に役立っている。	③ 見守り体制をつくる	1	・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らしてを実施する。 ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	平成27年4月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などの内、見守りを希望する方(手上げ方式)及び見守りが必要と思われる方、92世帯に対し、目配りや電話による安否確認を開始し、継続した見守りに取り組んだ。 また、町内自治会や協力員に対し研修会を実施し、見守り活動に対する理解を深めることができた。	概ね計画どおり取り組みを実施したが、事業を継続していくために、担い手を確保する必要がある。時間をかけて、あきらめずに地域活動への参加を呼び掛けることが大切である。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。 コロナ禍でも行政の指導を厳守し、活動してきた。一人のコロナ陽性者も出していないのが誇りでもある。福祉の町松ヶ丘中学校区を目指すという目標を忘れずに、積極的に活動していく。
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5		地区部会では、「いきいきサロン」や「ゆうあいひろば」のメニューとして淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防や引きこもり防止の講話(相談含む)を行った。 また、「いきいき散歩クラブ(高齢者福祉委員会)」を月2回開催した。 さらに、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ヶ丘公民館(週1回)、葵幼稚園(不定期)、恵光園(週1回)、仁戸名自治会館(週1回)、都苑(不定期)、第3公園(週1回)でシニアリーダー体操を実施し、高齢者の健康維持・増進を図った。 あんしんケアセンターでは、さくら会館で健康体操を実施した。 各町内自治会では、有志によるグラウンドゴルフは盛んに行われ、大会を年3回開催している他、スポーツ振興会が年2回、大会を開催している。 「淑徳大学看護栄養学部」と「ひだまり運営委員会」が連携し、「淑徳オレンジカフェ」を月1回開催した。		
	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10		松ヶ丘中学校区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集及びPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 また、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4子どもと子育てを支える仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

資料3-2

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
川戸地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進 ③ 見守り体制をつくる ⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実 ⑦ 地域での健康づくり支援の充実 ⑨ 子育てサロンの充実 ⑪ 世代間交流の場の提供 ⑫ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	9 10	・基本的な感染対策を行いながら、すべての取組を実施する。 ・令和2年度にはについては、活動中止が多く、交流の場は全くなかったため、令和3年度には活動を開始させたいと、再始動は難しいと判断しているため、小規模であっても以前の活動を行いたい。	例年、地区部会が主催する行事や活動(バス研修旅行、敬老会、福祉バザー、見守り隊の活動、お助け隊の活動)については、コミュニティ懇談会、第21地区連絡協議会、民生委員・児童委員協議会、スポーツ振興会、PTA、子ども会と意見交流を図りながら、関係団体の協力を得て実施しているが、コロナ感染拡大に伴い、市社協の通知に従い、中止。	実施の可否の判断が困難であった。 担い手の確保も難しい。手当についても検討するべきか。 担い手不足で役員に負担がかかっており、安定した事業運営のための担い手の確保については、継続した課題である。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。
【人口・世帯数】		6,935人、3,274世帯				
【町内自治会数】		13町内自治会				
【高齢化率】		33.0%				
【地域の特徴】		○川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部、平山町(緑区)の一部を対象としたエリア。千葉市の中央台地に位置し、大網街道を境に東側は旧川戸の部落で、西側は高層住宅の立ち並ぶ地域である。周辺には、千葉南高校、千葉県がんセンター、国立千葉東病院などの公的機関が存在するが、千葉市の公的機関が少なく、川戸公民館が唯一のコミュニティの場である。また、高齢化率については、30%を超え高くなっている地域である。				
③ 見守り体制をつくる		1		地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常的な目配りや声かけによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう、継続して見守り活動に取り組んだ。例年、年3回実施している報告会は、11月のみ実施。		
⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実		2		地区部会が、いきいきサロン「ひまわり会」を年6回開催し、高齢者の仲間づくりや健康維持を図った。また、参加者の増加を図るため、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、サロンの案内を行うとともに、対象者が参加したくなるような内容を検討した。		
⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	スポーツ振興会が毎週日曜日にラジオ体操と散歩を実施した。また、各町内自治会がランドゴルフを実施し、高齢者の健康維持を図った。				
⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育てサロン「もーもークラブ」を年4回開催し、子育て支援を図った。また、参加者の増加には至らなかったが、民生委員・児童委員と連携して対象者を個別訪問してサロンの案内状を配付し、潜在的な利用者の掘り起こしに努めた。				
⑪ 世代間交流の場の提供	9	例年、地区部会が開催する敬老会に、千葉南高校、川戸中学校、川戸小学校の児童・生徒が参加し、高齢者と交流する機会となっているが、コロナの影響で中止した。また、世代間交流の場となっている「福祉バザー」も、コロナの影響で中止した。 また、地域の団体が、例年実施している、盆踊り大会や、美化活動、スポーツ祭、餅つき大会等も中止となった。				
⑫ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供するため、広報誌を年1回発行しているが、コロナの影響で諸行事が中止となっていることから、発行も見合わせた。				

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4子ども子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
星久喜地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,703人、5,673世帯 【町内自治会数】 24町内自治会 【高齢化率】 26.2% 【地域の特徴】 ○矢作町、星久喜町の一部、松ヶ丘町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 かつては純農村地帯だったが、東金有料道路の開通・宅地化の波とともに、世帯数も増加した。「千葉市都市緑化植物園」「青葉の森公園」などの公共施設を抱え、緑に囲まれ恵まれた環境にある。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、徐々に活動を再開する。 ・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らして活動を実施する。	地域運営委員会では、地域団体の事業日程調整を行い、理事会を開催し、共通理解、連携強化に努めた。 地域運営委員会のホームページを随時更新し、情報発信に努めた。	コロナ禍で、大規模のイベントの開催は、安全を考慮すると、中止せざるを得なかった。 また、特に子育てサロンについて、コロナ禍ということもあるが、参加者が減少している。チラシを店内に貼ってもらったりしているが、たくさんの親子に如何に参加してもらうかが今後の課題である。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なを除き、少人数の取組みに絞って又は人数を減らして活動を実施する。
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6		地区部会及び青少年育成委員会等が、子ども達の安全を守るため、毎日の登下校時にセーフティーウォッチャー活動を実施した。 青少年育成委員会が、長期休暇前の学区点検を実施した。 育成委員会と地区部会が共催している書き初め練習会・書き初め展示会を実施し、子ども達との交流を図った。 育成委員会と公民館共催の「お泊りイン星久喜」は中止になったが、代替え事業として、凧作りと凧あげ大会を開催した。		
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2		地区部会が70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園・都市緑化植物園の散歩・クリスマスお楽しみ会などのいきいきサロンを年5回実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ。(2回は雨天中止、1回はまん延防止等重点措置期間のため中止) その他、脳トレサロンを前期10回、後期10回、わくわくサロンを10回開催し、高齢者の認知症やフレイルの予防に取り組んだ。		
	⑨ 子育てサロンの充実	4		地区部会が子育て中の親子を対象に、年7回、都市緑化植物園のお散歩、読み聞かせ、歯科衛生士さんのお話、栄養士さんのお話、クリスマスお楽しみ会等を内容とした子育てサロン「トントンルーム」を実施し、仲間づくりに取り組んだ。(3回はコロナ禍で、安全を考慮し中止。)		
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8		公民館文化祭が中止になったので、障がい者福祉委員会による作業所作品販売のお手伝いは中止となった。		
	⑪ 世代間交流の場の提供	9		コロナ禍、参加者、関係者の安全を守るため、敬老会をはじめ運動会、お泊り会の行事は中止となった。		
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8		障がい者福祉委員会、ボランティア委員会による「発達障害を正しく知ろう」研修会を実施した。		
千葉みなと地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,225人、4,257世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 11.4% 【地域の特徴】 ○中央港、千葉港、問屋町を対象としたエリア。ほとんどの住民がマンションに居住している。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	コロナの感染が拡大している期間を除き、町内自治会や民生委員・児童委員、行政等の関係機関・団体が集まり、「千葉みなと地区部会」、「千葉みなと地区自治会連合会」、「新宿中学校避難所運営委員会」の定期会合を2か月に1回開催し、地域課題の意見交換を行った。	一部目標は達成したものの、支え合いや見守りの体制の構築には至らなかった。 自治会館や公民館のような場所がないので集いたくてもできない。最大の課題は場所の確保と、それを支える要員の確保は継続した課題。 安定した事業運営のためには、担い手や活動拠点の確保が必要である。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
	③ 見守り体制をつくる	1		民生委員の協力にてひとり暮らしの高齢者や要介護者等の実態を把握した。また、マンションの管理人と情報交換し、各マンションの情報把握に努めた。		
	⑭ 防災体制の充実	6		避難所運営委員会では、災害時の対応を協議するため、隔月で定例会議を開催するとともに、年1回、避難所開設訓練を行った。 また、各マンションでトランシーバーを導入し、災害時の支援体制を整備した。 各マンションでは、年1回、消防による初期消火訓練等の防災訓練を実施した。		